

# QSK にぬふあぶし

No.334

ね  
子の方向の星(北極星)



## みんなねっと全国家族大会・北海道大会に参加しました

おあしすコール 島袋照美

10月11日(金)、朝早くに自宅を出たけれど、那覇空港を出発し、今回の会場となる札幌市へ着いたのはもう夕方近く。北海道はさすがに遠い……。

その晩に懇親会があり、会場へと向かう途中、とても大きな美しい月を見る。(北海道は月も大きいこと!)

その日は、「浦河べてるの家」見学バスツアーのオプションに参加している方々が50余名、懇親会会場へと向かう途中アクシデントがあり、間に合わず、すでに参加している少人数でジギスカンを何人前(?)、堪能することになりました。(バスツアーの参加者には申し訳ない思いですが、美味しく頂きましたm(\_ \_)m)

さて、翌日“対話を家族のものに”のテーマで開催された大会、午前の基調講演「自分自身でともに」では、浦河べてるの家・理事長の向谷地生良氏が主人公(当事者)たちと登壇し、講演というよりはまるでおしゃべり(対話)会。自分自身で付けた病名を発表して、体験をもとにした対話が続いた後、ビデオを視聴。出演者はべてるの家の皆さんのようです。



主人公の妄想や幻聴から起こす行動に対するとらえ方やかわり方で、病状を困ったものにとらえず、微笑ましいことになっていて、私も思わず笑顔になっていました。

昼食後は、淑徳大学の伊藤千尋氏の特別講演「家族会の可能性～変革は小さな声から～」と題して、家族(ケアラー)のとらえ方(家族の対応が良ければいいの?)によっても家族会の目指すものが変わってくる……というお話。

家族会の存在が家族のリカバリーの場所であり、そこから小さな声を聞く。対

話の中から社会の問題に気づき、社会にメッセージを届けることができる。「家族会は家族のためにある」。

優しい語りですが、勇気を与えて下さいました。

続いて分科会へ。私たちは「第1分科会」、「やってみよう家族の当事者研究」へと参加しました。

家族も当事者として、家族が抱える苦労に「知恵が眠っている」、「ユニークな理解やアイデアこそが自分を助ける方法の重要な発見になるのでは」と、「家族の当事者研究」を始められたとのこと。楽しかったと参加された家族の言葉を受けて参加しましたが、目的、経過説明と続き、午後4時も過ぎて、集中力が途切れ、残念なことに研究参加の家族のデモンストレーションからは頭に入って来ませんでした。ただ、向谷地さんの「統合失調症を楽しむ」との言葉だけ強く残っています。

3日目は札幌市内を散策。ゆるりと時を過ごし、4日目朝にホテルを出て、我が家に着いたのが夜の8時半頃です。

一緒に参加をしたのが私と島袋スミ子さん(85歳)と山田会長。そして宮古島から直行の荻野由香里さん。出発までは色々ありましたが、スミ子さんが「最後の学び」と意気込んで、最後まで元気に参加することができました。



数日後、「お疲れありませんか？」とスミ子さんからの電話に「それ、私のセリフですよー」(笑)。

全国家族大会に参加をする良さは、そこでかかわっている方々の実践的な取り組みやお話が直に聞けること、また、全国の家族との出会いの機会があることです。

運営委員の皆様お疲れ様でした！





参加費無料!

# あなたの力が 家族を変える!

## 読谷村&沖縄市 講演会とワークショップ

講師: 高森 信子さん

- ・日本で初めて「家族SST」を始めた方です。
- ・接し方のバイブルと言われる本「あなたの力が家族を変える」の著者です。
- ・家族が当事者にどのように接したらよいのか、ということに絞り込んだ研修やワークショップを全国で開催しています。

- ① 2025年1月25日(土) 読谷村社会福祉協議会2階ホール
- ② 2025年1月26日(日) 沖縄市福祉文化プラザ2階ホール  
両日とも 第1部:午前10時~12時 / 第2部:午後1時~4時

参加対象者:

第1部…こころの病を抱える方の家族。不登校・ひきこもり(病気ではない)の方を抱える家族。生きづらさを感じている方。教育関係者。関わる仕事をされている方(ヘルパー等々)。関心のある市民。

第2部…おもに家族を対象。

また実際に関わる福祉事業所の職員等を中心とします。

参加費: 無料

申込方法: ① 読谷村社会福祉協議会会場  
TEL:098-958-7786(みつ葉)

② 沖縄市福祉文化プラザ会場  
右のQRコードから



沖縄市会場の  
お申込みはこちらから!

問い合わせ: 沖縄市精神療養者家族会おあしすコール  
島袋(TEL: 090-6866-2039)

申し込みメ切: 2025年1月23日(木)午後5時まで

# ゆい=ジョブ! 「おしごと発見フェア」

## 3年間の成果と今後の課題 ～後編～



喜納 政哉(ゆいジョブ!実行委員)

2022年から始まった「おしごと発見フェア」について、これまでの振り返りと今後の課題や展望を書かせていただいています。

前号からの続きです。

### 3. ヤマト福祉財団と「ゆいジョブ実行委員会」の取り組み



「おしごと発見フェア」の運営には、ヤマト福祉財団と「ゆいジョブ実行委員会」が重要な役割を果たしています。ヤマト福祉財団は、障がい者の就労支援を目的とした全国的な活動を行い、障がい者が自立して働ける社会の実現を目指しています。

一方で、「ゆいジョブ実行委員会」は、福祉事業所や一般企業の有志が集まり、

地域での障がい者雇用を推進していますが、「おしごと発見フェア」では主に以下のような活動にたずさわっています。

- 沖縄県や労働局、企業団体への協力依頼
- 一般企業へのイベント趣旨説明会の開催
- 出展企業募集のための広告出稿
- 大学や医療系専門学校へのボランティア協力依頼
- ジョブサポーターなど障がい者支援専門スタッフとの連携
- 各市町村の福祉課を通じたイベント周知活動、特別支援学校利用者やその家族への広報

これらの活動を通じて、地域全体が障がい者雇用を支える体制を構築しており、イベントはその核となる存在です。

### 4. 今後の展望と目標

「おしごと発見フェア」は、今後も成長を続け、障がい者雇用をさらに促進することを目指し、毎年行われるアンケートの結果を基に、参加者の声を反映したイベン

トの改善を続け、障がい者と企業双方にとってより良い機会を提供していきます。

これからもイベントの規模拡大だけでなく、企業と障がい者のマッチングをより効果的に行うための新しい取り組みも検討していくこととなりますが、今後もヤマト福祉財団やゆいジョブ実行委員会が中心となり、就労支援事業者や一般企業、教育機関と連携しながら、地域全体で障がい者が安心して働ける社会環境を整えることを目標としていきます。

## 5. 最後に

「おしごと発見フェア」は、企業と障がい者が出会い、互いに学び合う場として重要な役割を果たしています。企業にとっては、障がい者の能力や強みを理解し、実際に雇用するための具体的なステップを学べる場です。また、障がい者にとっても、自分に合った職場環境を見つけ、働き始めるための自信を得る貴重な機会となっています。

これからも、フェアを通じてさらに多くの企業が障がい者雇用に取り組み、地域全体で障がい者が自信を持って働ける環境づくりを進めていくために、継続的に取り組んでいきます。



### 【寄付金／賛助会員加入のお願い】

沖福連の活動は、みなさまからの賛助会費やご寄付によって支えられております。今後とも、あたたかいご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

賛助会年会費 個人1口：2千円 / 団体・法人1口：1万円

琉球銀行：南風原支店 普通口座 229887

ゆうちょ：02020-0-37037 (加入者名：公益社団法人沖縄県精神保健福祉会)

## 第55回 精神保健福祉普及大会がありました

11月6日(水)、アイム・ユニバースてだこホールにて、精神保健福祉普及大会が開催されました。今年のメインテーマは『発達特性と社会参加』。特別講演と公開座談会による、ボリューム十分な学びの時間となりました。

功労者表彰では、沖福連の高橋年男さんらが県知事表彰、金武町「イッペーの会」や、宮古島市「NPO法人マーズ」などが優良団体表彰、また沖縄市地域活動支援センターの照屋美根さんが永年勤続者表彰を受けています。笑顔の溢れる秋の日和でした!



恒例の展示販売ブースも



表彰されたみなさま、おめでとうございます!

### ◎編集後記◎

『ナイト・イン・ザ・ウッズ』というカナダ産インディーゲームとの出会いは、もしかすると今年いちばんの収穫だった。“心の病や抑鬱、中流・下層階級の淀み、そしてゆっくりと終わりを迎えるアメリカの小さな町”を内包したテーマ、とされている。主人公は大学を中退して田舎に帰ってきた20歳の女性だ。内面も含めたキャラクター造形が素晴らしく、海外通販のTシャツをつい取り寄せて買ってしまったほどだ。バットを振りかぶった主人公が自分のことを「くそゴミ人間」であると宣言している。そういうプリントのTシャツだ。印刷も正直安っぽい生地もペラペラに薄い。だからこそ最高である。世界に対する怒り。反抗の魂。ほくは彼女とともにありたい。(増山)

編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会

会長 山田 圭吾

〒901-1104

沖縄県島尻郡南風原町字宮平206-1

電話098-889-4011 FAX098-888-5655

E-mail [terushino@castle.ocn.ne.jp](mailto:terushino@castle.ocn.ne.jp)

発行：九州障害者定期刊物協会

〒812-0068

福岡市東区社領1丁目12番4号

電話092-753-9722 FAX092-753-9723

定価：10円(会費に含まれる)